

治療法	種類	作用機序	有効性	使用方法	保険適用	主な注意点
非ホルモン療法	腔保湿剤	高分子ポリマーが腔に付着し保湿	軽度症状に有効	週2-3回以上	なし	対症療法のみ
	潤滑剤	性交時の摩擦軽減	性交時症状に有効	性交時使用	なし	対症療法のみ
	骨盤底筋リハビリテーション	骨盤底筋機能改善	機能改善に有効	適宜	なし	他治療と併用可
ホルモン療法	エストリオール錠	局所エストロゲン作用	高い有効性 組織学的改善あり	初期毎日→週2-3回	あり	乳癌既往例は慎重投与または禁忌
	エストラジオールクリーム	局所エストロゲン作用	高い有効性 組織学的改善あり	初期毎日→週2-3回	なし	乳癌既往例は慎重投与または禁忌
	全身ホルモン療法との併用	局所・全身のエストロゲン補充	GSM残存例に有効	個別化	あり	乳癌既往例は慎重投与または禁忌 ホルモン過剰注意
非エストロゲン薬物療法（日本未承認）	オスペミフェン	選択的エストロゲン受容体調節薬	腔萎縮・性交痛に有効	経口60mg/日	なし	おもな副作用はほてりなど
	DHEA製剤	内でエストロゲン・アンドロゲンに変化	腔萎縮 性交痛 有効	腔投与	なし	全身に影響少ない
	テストステロン製剤	アンドロゲン作用	性欲低下に有効	局所/全身	なし	血中モニタリングなどで管理
	チボロン	複合ホルモン作用	GSMを含む更年期症状に有効	経口2.5mg/日	なし	わずかだが不正性器出血、浮腫
エネルギーデバイス	CO2フラクショナルレーザー	微小蒸散効果と熱刺激	萎縮・性交痛に有効 短期改善報告あり 痛み・ダウンタイム少ない	複数回	なし	長期効果はエビデンス不足
	Er:YAGレーザー	非蒸散性熱刺激	腔萎縮・性交痛に有効 痛み・ダウンタイム少ない	複数回	なし	長期効果はエビデンス不足
	高周波（RF）	電磁波による組織加熱	感染・瘢痕リスク少ない	複数回	なし	安全性は高いが、効果のエビデンス不足
	高密度焦点式超音波（HIFU）	超音波エネルギーによる深部加熱	痛みあり・腔壁（引き締め）への作用期待	複数回	なし	エビデンスが著しく不足